

エコニュース さって



第 49 号

平成 25 年 6 月 3 日
幸手市市民環境会議
(さって市民環境ネット)
TEL48-0331

今年もエコライフDAYに参加しよう！ 報告：中山

埼玉県が主催するエコライフDAY2013（夏）が今年も7月からスタートします。幸手市では環境課と私たち“さって市民環境ネット”が「幸手市エコライフDAY実行委員会」を組織し、チェックシートの配布と回収そして集計を行います。

配布先は、市内の全小学校と中学校、市役所、商工会、自治会、関係諸団体、全公民館そしてひばりが丘工業団地の各社等です。

小中学校の児童、生徒の皆さん及び一部の市民の方々には、今年もチェックシートを記入する時期になったかと、改めてチェックシートに記載の20項目を点検し“エコライフ”を想起する良い機会となっています。

「地球温暖化」の言葉自体良いイメージを受ける事より、一部の市町村では危機感を共有するため「地球高温化」と言い換えておりますが、各種のデータでは温暖化、高温化が進んでおり、これが最近の気象異常にも繋がっているとの説もあります。

人々がより良い便利な生活を目指し、エネルギーを多く消費する生活では、間違いなく温暖化の原因であるCO₂を多く放出します。しかも、豊かさに慣れ、つつい電気、水、ガソリンの浪費をしております。このような事は、今すぐの生活に影響を与えないかもしれませんが、確実に次世代、子供及び孫の代では大きな汚点となって影響します。

この運動は既に7、8年が経過し“エコライフ”の言葉自体は広く認識されていますが、



市長と教育長を囲んで宣言式を実施

エコライフDAY運動の一環として、“緑のカーテン”ゴーヤの植付けを行っています。5月28日、幸手小学校職員室の壁に渡邊市長さんと子供たちで植えました。今年の8月、9月の暑い盛りには立派なカーテンとなり、ゴーヤの実は美味しく食べることが出来ました。また、南公民館西南に面した室は、真夏の太陽を浴び、昨年、緑のカーテンは大変効果大でしたので、今年も植付けました。

各種調査では、家庭からのCO₂排出は毎年のように増加しています。これは真にエコライフが家庭では実践されていないことの証左です。このような実態を念頭に、今年もチェックシート記入に臨みたいし、一人でも多くの方々にエコライフをPRしたいと思います。



市長と幸手小学校児童とでゴーヤ植付け

第1回市民環境講座

第7回中川探検ウォーク実施

報告：高久

～ 春の声をさがしに中川の小径を歩く ～

- 日時：平成25年4月20日（土） 9時30分～ 天気 曇
- 観察地：幸手市東公民館→吉田橋→高平橋→天神橋→（クヌギ林）→東公民館会場
- 参加者 26名（一般参加14名、講師2名、スタッフ8名、環境課2名）

4月後半にしては、少し肌寒い（気温11℃位）中、今年も多くの参加者を得て、新緑の木々と土手の菜の花を眺めながら中川の自然探索が市民環境講座の一環として行われました。当日は、東公民館に集合し、冒頭、講師の紹介、日程（コース）説明を受けた後に、全員で記念写真を撮り、いざ出発。直ぐに菜の花の咲く河川敷に下りて、野草のノヂシャ、スイバ、ギシギシ他の説明を山本先生から受けました。途中、みんなで椿の花を吸って甘い蜜の味を確認し、またハンノキ、屋敷林やクヌギ林の説明もして頂きました。

一方の野鳥では、イソシギ、コチドリ、ハクセキレイ、ホオジロ、他多数観察できました。青柳先生からは、その都度、野鳥の紹介をされますがフィールドスコープから覗くのも一瞬でした。

約2kmの道程の中で、いろいろな自然との出会いに参加者は思いを寄せられていました。その後、東公民館に戻りまとめの学習を行いました。ルーペ、双眼実体顕微鏡を使い「カキドオシ」の花の様子を調べたり、「スイバ」の葉で10円玉を擦って汚れを落とす”しゅう酸効果”（漂白）を試したりしました。

一番びっくりしたのは河川敷で採取した「オニグルミ」の葉痕が羊の顔にそっくりに見えたことでした。また、青柳先生からは今日確認出来た野鳥は27種だったと全ての名前の報告もありました。当日は、気温の関係で蝶の飛んでいる姿を見ることが出来ませんでした。下見（4/6, 13）では、ベニシジミ、モンキチョウ、ギンイチモンジセセリ、他観察することができました。

今回も参加された皆さんは、約3時間弱の自然観察でしたが一様に満足なされた様子でした。そして、青柳先生（野鳥）、山本先生（野草、樹木）には毎回熱心にご指導くださいまして誠にありがとうございました。



青柳先生と山本先生と中川探検ウォーク隊(東公民館前)

第5回ハウネンエビ（田んぼの妖精）観察会

報告：澤村

- ・日時：平成25年5月18日（土）
- ・場所：幸手市千塚地区（西公民館裏）
- ・参加者：一般参加 8名、スタッフ 9名 計17名

事前下見（5月4日、11日）の時の天気予報では、曇りで雨の確率もありましたが当日は幸いに日のさす空でした。西公民館の会議室に集合して、宮田副会長から開催要領、久保田会長挨拶、石井講師から観察内容・場所の案内があった後、全員がリュックを背負って下見と略同ルートに沿って観察しました。結果は、下見と同じ田んぼに生息していることが確認され、他の田んぼにはまだ発生がみられませんでした。下見では3～5mm程度の大きさでしたが、1～2.5cmに生長していました。大きなメスは既に赤茶色の卵袋を

抱えており、一生懸命にメスを探す参加者もいました。また、見つかり難い半透明なエビが、時折日がさすと影が映り良く見えることも確認できました。

なお、スタッフから一般参加者に「半透明で白～うす緑状なのでじっくり見ないと見逃してしまうこと、また、生息位置は主に人の足跡のようなくぼんだところに多くみられ、そこには餌となるプランクトンが多く滞留しているためと思われます。」とガイドしました。一般参加者から見つけた時の感動の喜びの大きな声が聞こえました。また、目盛り付きミルソー（平べったい水槽）に採取して仰向けに泳いでいる姿を確認しました。公民館に戻って、田んぼから採取してきたホウネンエビをスタッフの指導の下でスタンドルーペと双眼実体顕微鏡（20倍）で観察しました。特に双眼実体顕微鏡（20倍）で赤茶色卵袋を覗いて粒状の卵が動いているのが確認できました。

別の調査から、えら脚が11本ずつで計22本あり、えら脚は泳ぐ働きとともに口の方へエサ（プランクトン）を引寄せさせる働きをしている。仰向きの理由はより明るい方を好む（夜間、光に集まる習性）、水面の餌を好むという説もあり、よく調べて検証して応えるようにしたいと思います。幸手市史自然環境編Ⅱ「幸手市の水生動物（1998年）」によるとホウネンエビは市内の多くの箇所、田んぼに生息していたことが分かりました。

参加者の感想には「感激した」「癒された」「見かけはかわいいが、逞しさと生命力の強さを感じた」「2度目ですが生命力を感じた」などがあり、来年も参加したいという人が多くありました。

石井講師から総評は、今回の観察会で新たに学んだこと（情報）は、皆さんの質問内容が高度化してきたこと、NHKミクロワールド「豊作を招くホウネンエビ」より詳しい情報が入手できたことです。特に土の中に0.2mm位の赤色状卵として存在するとの映像説明



があったことで、今後、何とか当観察会でホウネンエビの卵を土中から見つけ、孵化させたいと思います、ということでした。

今回のサプライズは、エビガニの脱皮行為を観察できたことです。

最後にスタッフとして成功裏に開催できたことと、来年も参加したいという人も多く来年度も開催すべき責任を感じました。

幸手小学校環境講座

報告 唐澤・宮田

日時：5月23日(木) 10:30～12:10 講師：石井、藤城、本田 スタッフ9名

テーマ『身近な環境の生き物を調べよう！』『田んぼの妖精に会いましょう』 幸手の水田に生まれている、『ホウネンエビ』と言う田んぼの妖精や身近な自然について4年生56名の児童の皆さんと調べ学習観察を行いました。

水田の土と草花を調べる集会室では、(土と草・水と生き物・土の中の虫)と3つのテーマを、1班～5班が観察を行いました。今年は8種類ほど増えた土と草花の中からイチゴとヘビイチゴとの違い及びオオバコの特徴をルーペや双眼実体顕微鏡を使用して観察を行いました。カラスまたはスズメと言った鳥の名前の付いた「草笛」になる植物にも興味を持ち、鳴らしている児童もいました。水辺の生物では、カエル・タニシ・ドジョウ等を水槽の外から見た後、オタマジャクシの特徴を双眼実体顕微鏡で調べました。土の中の虫では普段から身近にいる、ダンゴ虫の特徴を熱心に調べました。自分の興味のある物との不思議な特徴を見つけて驚いた時の目は輝き大きな声が響いていました。

ハウネンエビの観察を行うオープンスペースでは、グループ別にミルソー（薄い観察用水槽）とルーペで実際の姿を観察、スタッフからハウネンエビの泳ぎ方、オス・メスの形、特徴などの指導を受けました。双眼実体顕微鏡を使いメスの卵を観察すると「わぁ～凄い！」と驚きの喚声が響きました。

「生態系のピラミット」の図を使い、講師の藤城さんが生き物の仕組みを丁寧に解りやすい説明をしている内に、最初「生態系って何？」と解らなかつた児童も土の中から木の上の鳥のところまで目を丸くして聞いていました。

生きている物は皆、必要とされていることを学んでくれたのではないかと思います。

「ハウネンエビの一生」のビデオが始まると賑やかだった児童もビデオの音声を遮ることもなく、静かに神秘的な妖精の誕生に見入っている様子でした。

児童からの感想では、ほぼ全員の児童が「楽しかった。」と手を挙げてくれました。代表で発表した児童の感想も、ハウネンエビがお腹を上にして泳ぐ様子及び足が11本もあること、初めて見た小さな妖精が広くて大きな田んぼで泳ぐ姿の説明を聞き、「びっくりした。」「おどろいた。」などの感想が聞かれました。「ハウネンエビ」は小さな体で大きな感動を与える生き物だと思いました。



オスとメスの違いは？

学習会後の給食はほんとに賑やかで楽しい時間でした。パスタ・パン・スープ・牛乳・フルーツゼリーとバランス良く、少し多めに気を使って頂きましたが全て美味しく食べました。右隣りのお母さんを大好きな K 君、食後の片付及び牛乳パックの紙とプラへの分解など、ご指導して下さい有り難うございました。

★「地域ボランティア団体の活動体験」募集

「ビオトープ・浮島」を作って行幸湖の生態を豊かにしよう

- ・実施施設：幸手市保健福祉総合センター（ウエルス幸手） 第3会議室
- ・日 時：平成25年8月27日（火）9時～11時
- ・内 容：10/27開催の浮きウキフェスタ25「浮島づくり」のオリエンテーション、実習
①「行幸湖に浮島をつくる」ビデオ ②浮島の役割 ③浮島づくり実習（一部）
- ・持ちもの：筆記用具 ・注意点：軽装で動きやすく汚れてもよい服装、飲み物とタオル
- ・協 力：幸手市民環境ネット

主 催：社会福祉法人 幸手社会福祉協議会 幸手市天神島1030番地1
幸手市保健福祉総合センター内 TEL(43)3277 FAX (40)1400

【会員募集中！】環境保全活動と一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕

★問い合わせ・申し込み ★ 久保田 修(代表まで) TEL 0480-42-1264

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、幸ネット(子育て支援ねっとわーく)、いきがい・はなみずきの会(いきがい大学伊奈学園20期)、エコクラブW32(いきがい大学鷺宮学園32期)